授業科目名・形態	ソーシャルワーク演習Ⅱ　　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
担当者氏名	石岡和志　藤田博章　平林朋子	実務経験の有無	有	開講期	２年後期
科目ナンバリング	W5-2002s				

【授業の主題】

本科目は、ソーシャルワーカーに求められる相談援助にかかわる基本的な価値・知識・技術について、演習を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていけることができる能力を涵養することを目的とする。具体的には、相談の受付からアセスメント、プランニング、支援の実施とモニタリング、効果測定、終結とアフターケアまでの相談援助における一連の過程を体系的に学ぶ。

【到達目標】

1.他の科目で習得したコミュニケーション技術などを面接場面のロールプレイなどに活かし実践することができる。
2．具体的な事例をもとに、インテークから評価まで相談援助における一連の過程を実施することができる。

【授業計画・内容】

第 1 回　オリエンテーション・相談援助の展開
第 2 回　ソーシャルワーク方法論と援助の展開～インテーク演習①
第 3 回　ソーシャルワーク方法論と援助の展開～インテーク演習②
第 4 回　アセスメント演習①　情報収集、生活課題やニーズの明確化
第 5 回　アセスメント演習②　ストレングス視点の理解
第 6 回　プランニング演習①　利用者と環境の相互関係の分析
第 7 回　プランニング演習②　目標達成に向けた具体的方法の検討
第 8 回　支援の実施（介入）演習①　支援計画の展開①
第 9 回　支援の実施（介入）演習②　支援計画の展開②
第 10 回　サービス評価、アフターケア
第 11 回　終結～援助目標と支援計画の評価
第 12 回　ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー①
第 13 回　ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー②
第 14 回　ソーシャルワークにおけるメゾレベルの展開例を振り返る
第 15 回　まとめ

【授業実施方法】

基本的には演習形式とする。本演習はプロジェクターを用いた視聴覚プレゼンテーション、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を行う参加型授業形態で実施する。

【事前・事後学習】

毎回、テキストを中心に 30 分の予習及び演習内容を踏まえた 30 分の復習を行うこと。

【主な関連する科目】

ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅵ、ソーシャルワーク演習Ⅰ

【教科書等】

最新 社会福祉士養成講座 7　ソーシャルワーク演習（社会専門）中央法規出版 2021 年版

【参考文献】

適宜紹介

【成績評価方法】

授業態度 10%、提出物 60%、事例発表等 30%で総合的に評価する。60%以上の得点で合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設で生活相談員として勤務してきた。数々の相談業務の経験を活かし、実践的な相談援助の知識及び技術を伝えたい。

【学生へのメッセージ】

演習は具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイなど）を中心とする参加型授業形態で行うので、積極性を発揮してもらいたい。